

外国人雇用の未来 考えよう



橋梁設計などを手がける瀧上工業（半田市神明町）のダニエル・アベンヨさん（37）と松村寿男さん（54）が来月11日、瀧上工業雁宿ホール（同市雁宿町）で講演する。ウガンダ出身のダニエルさんが見た日本企業での仕事や、受け入れ側の留意点などをテーマに、これからの外国人雇用を考える。（内山陽貴）

来月11日 半田で講演

瀧上工業で働くウガンダ出身のダニエルさん。半田市雁宿町の半田国際交流協会。

「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。入社してから数年間は日本語が話せず、苦労する日々が続いた。ウガンダの家族とも連絡できない状況が続き、孤独だったという。毎週欠かさず勉強したり、社内や寮で日本語を話す機会を設けたりして、今では「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。

入社してから数年間は日本語が話せず、苦労する日々が続いた。ウガンダの家族とも連絡できない状況が続き、孤独だったという。毎週欠かさず勉強したり、社内や寮で日本語を話す機会を設けたりして、今では「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。

ダニエルさんは2019年から同社で勤務している。現在は技術開発の部署で大学と共同で研究したり、橋桁のコンクリート床版の損傷をパソコンで解析したりする。ウガンダでの仕事で2週間ほど来日し、明石海峡大橋や鋼鉄工場を見学したことで日本の技術に興味を持った。国際協力機構（JICA）の制度を使い、大学での勉強やインターンシップ（就業体験）を経て同社に就職。決め手は、見学して「学びたいことがたくさんあった」と感じたことだったという。

瀧上工業で働くウガンダ出身のダニエルさん。半田市雁宿町の半田国際交流協会。

「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。入社してから数年間は日本語が話せず、苦労する日々が続いた。ウガンダの家族とも連絡できない状況が続き、孤独だったという。毎週欠かさず勉強したり、社内や寮で日本語を話す機会を設けたりして、今では「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。

入社してから数年間は日本語が話せず、苦労する日々が続いた。ウガンダの家族とも連絡できない状況が続き、孤独だったという。毎週欠かさず勉強したり、社内や寮で日本語を話す機会を設けたりして、今では「英語が出てこないことがある」ほどに「なじんだ」。

ウガンダは、エンジニアのレベルが足りておらず、橋梁設計は他国に委託することが多い。ダニエルさんは大学生時代に「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」（神戸市）で橋梁技術を見学し、「すごい！日本の技術の高さを知った。外国人を採用することには、企業にも良い影響を与えている。ダニエルさんが入社したことで大学との共同研究が始まった。英語を話す人へのハードルが下がった」と企業として、より可能性が広がったと松村さんは話す。

橋梁設計のダニエルさん 瀧上工業・ウガンダ出身

知多版



旋律
佐藤重代
水彩連盟

ニュース(情報は下記へ)
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

半田支局 〒475-0903
半田市出口町1-45-18
0569-21-0021 Fax23-2372
中部空港支局 〒479-0881
常滑市セントレア1-1
0569-38-1310 Fax38-1311
東海通信局
0562-32-0240 Fax33-5065
大府通信局
0562-46-2668 Fax46-6833
常滑通信局
0569-35-2248 Fax36-0040
内海通信部
0569-62-0055 Fax64-0005

いのちのかけこみ寺
銀切り供養
大法寺

2024年4月25日(木)の中日新聞知多版



2024年5月11日(土) 記念講演の様子